

平成24年2月17日

川口市議会議長

篠田 文 男 様

建設常任委員会

委員長 関 裕 通

都市行政視察報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視察年月日 自 平成24年2月15日(水)～至 平成24年2月16日(木)
- 2 視察都市 福岡県小郡市・福岡県大野城市
- 3 視察事項 建設常任委員会所管事項
 - ・松崎景観憲章について(小郡市)
 - ・公園再整備のすすめ事業について(大野城市)
- 4 視察参加者 関裕通委員長、幡野副委員長、富沢、矢野、関由紀夫、高橋、篠田、松本(英)、大関、最上の各委員
- 5 随 行 川口補佐、川瀬主任
- 6 視察概要 別添のとおり

建設常任委員会行政視察

【視察概要】

当委員会の所管事項について、去る2月15日及び16日の日程で福岡県小郡市、大野城市を視察いたしましたので、その概要と所感を報告いたします。

・平成24年2月15日（水）

・視察地 小郡市

小郡市は、福岡県の南部、筑紫平野の北、佐賀県との県境に位置し、南東を大刀洗町、久留米市に、西は佐賀県、北東は筑紫野市、筑前町にそれぞれ接している。東西6キロメートル、南北12キロメートルにわたる区域となっている。総面積は45.5平方キロメートルあり、筑後川と宝満川が合流するデルタ地帯に位置し、東北の台地には標高130.6メートルの花立山があり西北丘陵地帯は、なだらかな丘陵が連なり、ため池が点在している。また、市の中央部を南北に貫流する宝満川を挟んで、西側に住宅地帯、東側に田園地帯が広がっている。

同市の議会は、条例定数は18人、現員数は18人であり、常任委員会は総務文教、保健福祉、都市経済の3委員会が設置されているとのこと。

同市においては、「景観」というテーマを意識しながら地域の持つ歴史や個性、また、人々のさまざまな活動をひとつにして、活気があり、安心できるまちづくりを進めているとの説明を受けました。具体的は、松崎地区は、薩摩街道の宿場町として、江戸時代よりおよそ350年の歴史を持つ集落で、明治以降、宿駅制度が廃止され、西鉄大牟田線の開通などにより、交通の要衝としての役割は終えるものの、現在でも旅籠油屋をはじめ一松屋、鶴小屋などの旅籠建築、溝口などの歴史的建造物が残っている。

しかし、地区の高齢化の進行とともに空き家や空き地が増え、江戸時代以降の歴史的な雰囲気を感じさせるまちの魅力は徐々に減退しているとのこと。このような中、台風で破損した旅籠油屋の保存運動に向け、平成4年に「松崎地区町並み保存会」が結成されるなど、豊かな歴史的資源を持つ集落の遺産を有効に活用し、景観を保存するための取り組みが住民主体となって取り組まれているとのこと。

景観モデル地区は単なる像としての一面的な景観ではなく、「自然と人の営みの重層景観を加味し、日本の原風景、人々が抱く心象風景、情景に訴えるような物語性のある空間増として抽出・選定している。また、ソフト的な取り組みも含めたモデル地区も抽出しており、その主なものは次のとおりである。

- ①河川景観のモデル地区 ②田園景観のモデル地区 ③自然景観のモデル地区 ④集落景観のモデル地区 ⑤歴史的景観のモデル地区 ⑥都市景観のモデル地区 ⑦環境維持・連携・交流のモデル地区を選定するなど、景観事業を積極的に推進してまいりました。これらの取り組みは、本市の都市景観を考える上で、大変参考になるものであった。

・平成24年2月16日(木)

・視察地 大野城市

大野城市は、福岡市の南10km、太宰府市の北西5km位置しており、中心部は幅約1kmしかなく、ひょうたん型をしている。東北部は四王寺山・乙金山などを境に宇美町と接し、北部から西部にかけては福岡市・春日市と、南部は牛頸山を中心とする小連山があり筑紫野市・那珂川町と、東部は太宰府市と接しており福岡都市圏としては、貴重な緑がまだまだ残されている。

昭和47年4月に市制を施行し、平成24年4月には市制40周年を迎え、人口も9万6千人を数える県下8番目の人口を有する中堅都市として発展しているとのこと。

同市の議員の法定数は30人、条例定数は20人、現員数は20人であるとのこと。

委員会については、常任委員会、総務市民、福祉文教、都市環境を所管する3つの委員会と予算委員会が設置されているとのこと。

同市においては、公園再整備計画策定の背景として、公園、緑地が約140箇所あり、そのうち6割については、整備後20年以上経過し、老朽化している状況とのこと。

また、地域住民の高齢化や少子化等による生活スタイルの変化による公園に対するニーズの変化が起こっているため、公園が有している機能との隔たりが見受けられ、このことが全般的に公園の利用率が低調である主な原因であるとのこと。

今までの公園整備は、行政主導型で市が全て行っていたが、ここ数年、公園の再整備については、単発的にワークショップ等の市民参加の手法でいくつかの公園を新規整備、又は再整備した経緯があり、今後は従来の行政主導により行うのではなく、住民主導で公園の選定まで含めた整備計画を作ることにより、さらに住民ニーズにあった公園づくりが求められていくとのこと。

再整備公園づくりで、大切な視点は、公園の特徴を活かし、立地や公園の広さ、今あるものを活かすなど、公園の持つ条件に配慮すること。そして、仲間や地域の人と広がりのある利用が期待される近隣住民や市民のニーズを満たし、かつ人と人との交流を促すことに配慮すること。さらに、自分たちで実現できる公園利用を工夫する。

公園利用は、自分達で運営し使いこなせる利用方法であることに配慮することが大切であるとしている。

これらの取り組みは、本市の公園整備の見直しを考える上で、大変参考になるものであった。

以上のとおり、今回の小郡市及び大野城市の視察は、景観形成事業や地域住民提案型の公園再整備に大変参考になるものであった。

今後は、教示頂きました事柄を参考にしながら、市政のさらなる発展に尽力して参る所存であります。

以上で報告を終わります。